
第3次島田市環境基本計画の概要

島田市地域生活部環境課

計画の全体構成

第1章 基本的事項

- ・島田市環境基本条例第7条に基づき、環境の保全及び創造に関する総合的かつ長期的な施策の大綱等を定めるもの
- ・近年の世界・国の動向（SDGs、パリ協定、カーボンニュートラルなど）

第2章 本市を取り巻く環境の現状と課題

- ・現状と課題の認識
- ・環境に関する課題と経済・社会的課題との同時解決

第3章 目指すべき将来像・基本方針

- ・大井川が育む 豊かな自然と暮らしを紡ぐ循環共生都市 しまだ
～未来を拓き活力を創造するゼロカーボンシティ～
- ・2030年GHG削減目標46%以上

第4章 目指すべき将来像を実現するための施策

- ・脱炭素社会への挑戦
- ・循環型社会の構築
- ・自然との共生
- ・くらし環境の向上
- ・環境教育・活動の充実

第5章 計画の推進

- ・計画の推進主体と役割

基本的事項（P 2～3）

環境基本計画

- 環境の保全及び創造

地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

- 緩和策（温室効果ガス排出量を削減）

気候変動適応計画

- 適応策（気候変動の影響に対処し、被害を回避・軽減）

近年の世界の動向～SDGs、パリ協定～（P4）

■ 2015. 9 「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」採択

※世界全体の経済・社会・環境を調和させる統合的取組「SDGs（持続可能な開発目標）」

■ 2015. 12 「パリ協定」採択

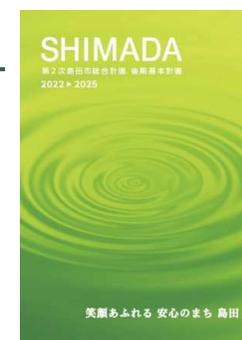
※産業革命前からの気温上昇を2°C未満にする
（1.5°Cに抑えるよう努力する）

※今世紀後半に温室効果ガス排出量を実質ゼロにする



島田市の動向（P9～P10）

- R3. 3 「ゼロカーボンシティ」表明
2050年までに**温室効果ガス排出量実質ゼロ**
- R4. 3 第2次島田市総合計画後期基本計画
循環型社会（エネルギーの地産地消・省エネなど）



本市を取り巻く環境の現状と課題（P12～P27）



第2次環境基本計画後期基本計画の振り返り（P34～43）

基本目標	A	B	C	—
1 自然環境の保全	1	4	5	1
2 生活環境の保全	7	1	1	
3 資源循環の推進	1	1	5	1
4 地球環境の保全	4	5	3	1
5 環境教育の推進	2	4		

環境に関する課題と共に解決が望まれる地域課題（P43）

■ 地域循環共生圏の考え方にに基づき、課題を例示



地域課題	具体的な例
人口減少	働く場所、暮らしやすさの確保等による若者流出防止と地域に応じた人口バランスの確保、公共施設のストックの適切な維持・管理・整備
観光	東海道の宿場町や蓬萊橋、お茶など島田市が持つ地域資源を活用した観光の振興
安全・安心	災害の頻発化・激甚化に伴う防災対策や、熱中症などのリスク対策の継続・維持
工業	新東名高速道路島田金谷インターチェンジ周辺への企業誘致等の産業・情報基盤の更なる整備
都市計画	コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり、歩行者にやさしい街路、空き家・空き店舗のリノベーション支援などまちの資産価値の向上
労働	地域資源を活かした多様な働き方の推進（サテライトオフィス、テレワーク等）
福祉	地域内の多様な主体が「我が事」として、人と人、人と資源が「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく地域共生社会の実現

目指すべき将来像（P44）

大井川が育む
豊かな自然と暮らしを紡ぐ循環共生都市 しまだ
～未来を拓き活力を創造する
ゼロカーボンシティ～



ゼロカーボンシティを実現した島田市の将来の姿（P45～46）

- 社会の変化や技術対策の進展などを具体的にイメージするため、県の温暖化対策実行計画に描かれている将来の姿を参照

部門	2050年の姿
産業	・ 電子化、シェアリング、長寿命化の進展、材料効率の改善などにより社会生活の脱物質化が進み、鉄、アルミ、セメント、紙など、素材の需要が2050年には全体として15%減少しています。
業務	・ 全般的に電気機器の効率が大幅に改善され、給湯器でもヒートポンプ、燃料電池コジェネへの電化が進んでいます。
家庭	・ 2030年以降は、新築住宅のすべてが断熱性等に優れたZEH水準の省エネ性能に適合した住宅になり、2050年には、ストック平均でZEH基準の水準の省エネ性能が確保されています。
運輸	・ 乗用車では、2035年には新車ベースで100%、2050年には保有車のすべてが電動化されています。 ・ 貨物車では、2030年には新車ベースで35%、2050年には保有車の8割以上が電動化されています。

目指すべき将来像を実現するための基本方針（P 4 7）

脱炭素の取組を通じた
地域活性化

エネルギー効率向上と再生
可能エネルギーの導入促進

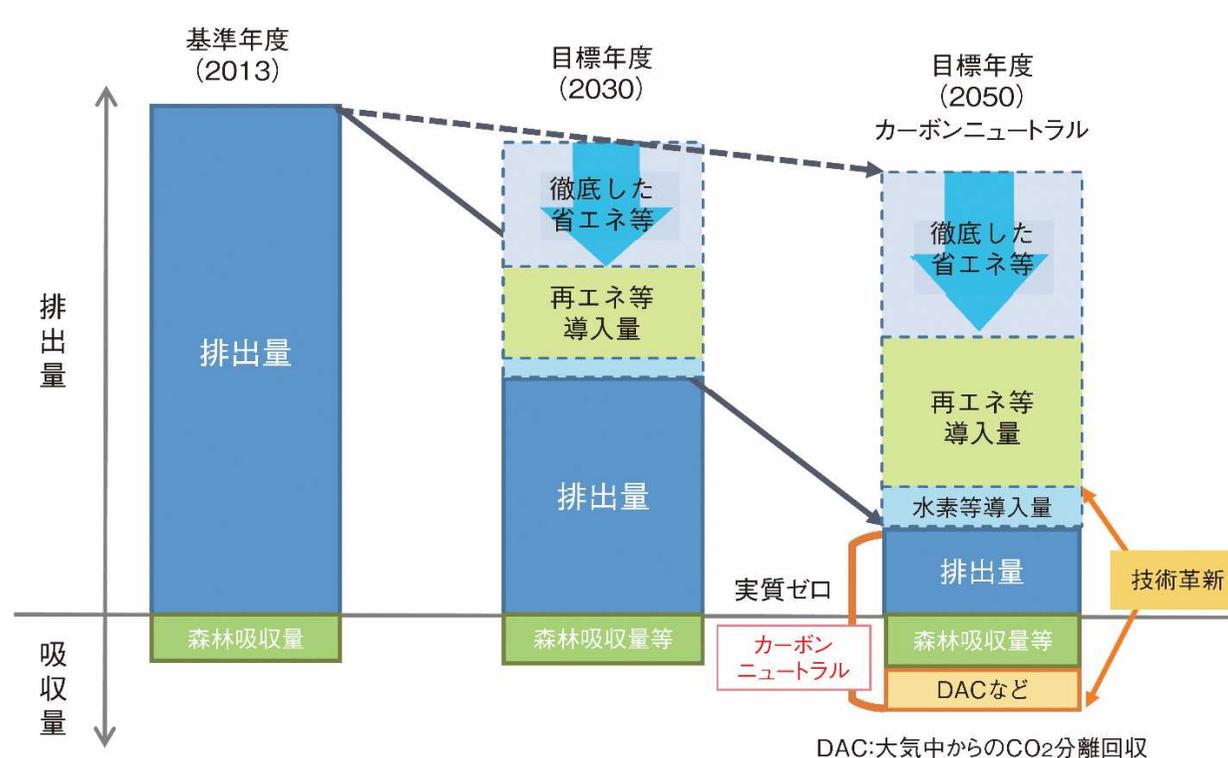
環境政策に取り組む各主体
の取組の実施と連携・協働

自然と人が共生する豊かな
環境の継承

ゼロカーボンシティ戦略 基本的な考え方 (P 4 8)

■ 温室効果ガス削減の基本的な考え方

- ① エネルギー効率向上
- ② 再生可能エネルギーの導入
- ③ 吸収源対策の推進



ゼロカーボンシティ戦略 温室効果ガス排出量削減目標（P49）

- 2030年度の目標：2013年度比 **46%以上**の削減

（参考）国の目標 46%削減、さらに50%の高みに向けて挑戦を続ける
県の目標 46.6%削減

(参考) カーボンフットプリント

- 衣食住や余暇の過ごし方をはじめとする私たちのライフスタイルは、気候変動への影響とその対策に密接な関わりがある。
- 市民の暮らしを支えるためにライフスタイルに関連して排出される温室効果ガスは、全体の**約6割**を占める。



日本のカーボンフットプリント内訳 (2015年¹⁾)

(出典)

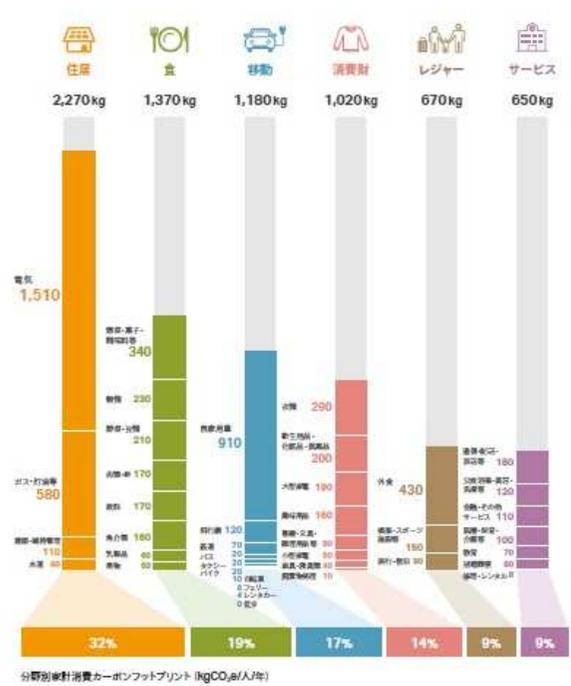
● Ryu Koide, Satoshi Kojima, Keisuke Nansai, Michael Lettenmeier, Kenji Asakawa, Chen Liu, Shinsuke Murakami (2021) Exploring Carbon Footprint Reduction Pathways through Urban Lifestyle Changes: A Practical Approach Applied to Japanese Cities. Environmental Research Letters. 16 084001

● 小出 瑠・小嶋 公史・南齋 規介・Michael Lettenmeier・浅川 賢司・劉 晨・村上 進亮 (2021) 「国内52都市における脱炭素型ライフスタイルの選択肢：カーボンフットプリントと削減効果データブック」

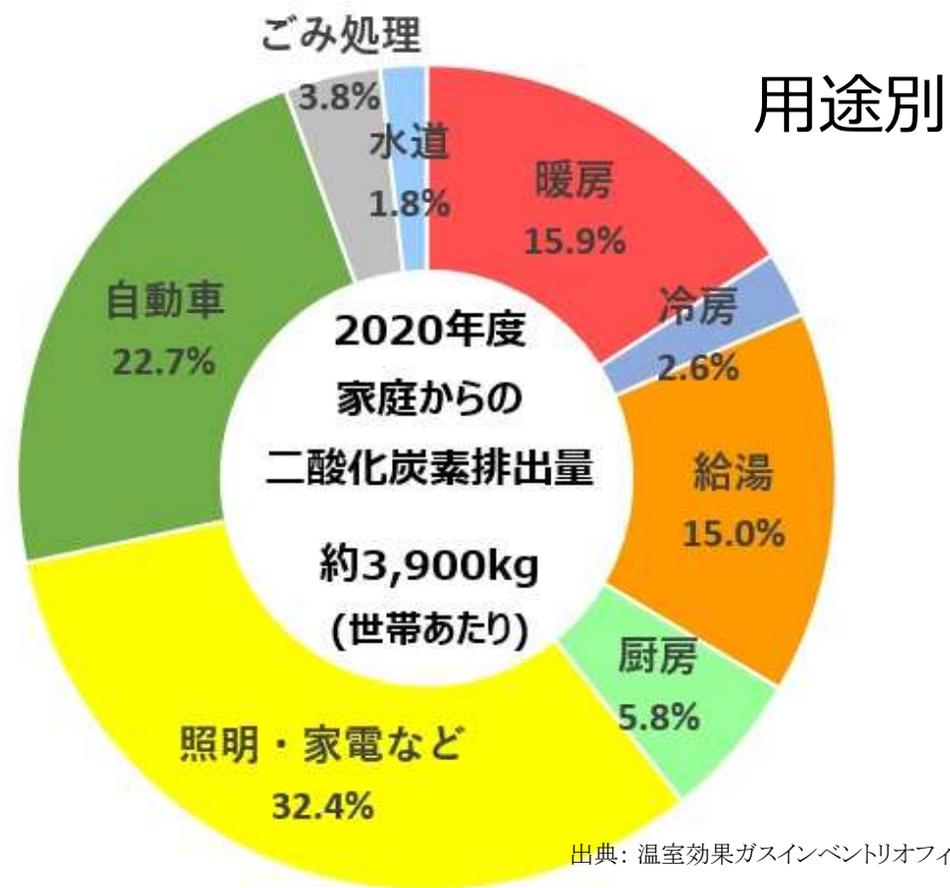
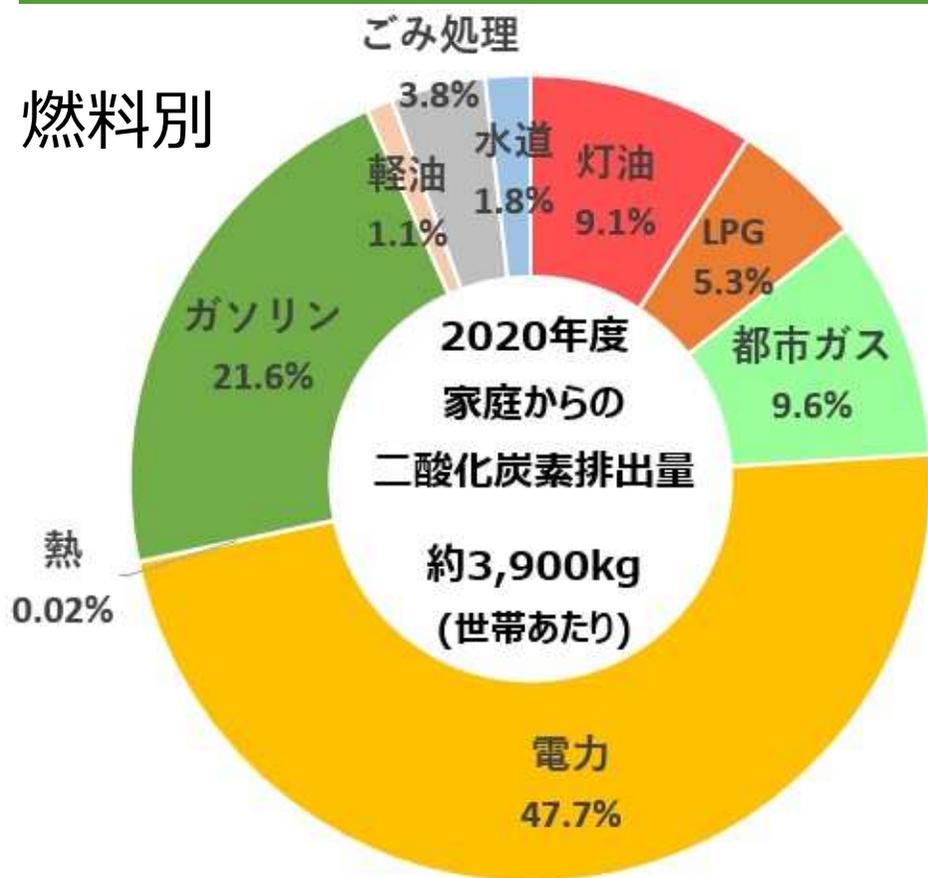
(参考) カーボンフットプリント (単位: kgCO₂e/人/年)

対策例 (数値は最大削減効果)

- ・ 2,210 自宅をライフサイクルカーボンマイナス住宅に
- ・ 1,500 自宅に太陽光パネル設置・調理器をIHに
- ・ 1,360 自宅の電力を再エネに
- ・ 480 マイカーを電気自動車に (充電は再エネで)
- ・ 250 マイカーをPHEVに
- ・ 200 通勤・通学を公共交通機関で
- ・ 190 衣類を長く着る
- ・ 130 菓子・アルコール・ジュースを減らす
- ・ 120 娯楽用品を長く使う
- ・ 60 食品ロスをゼロに

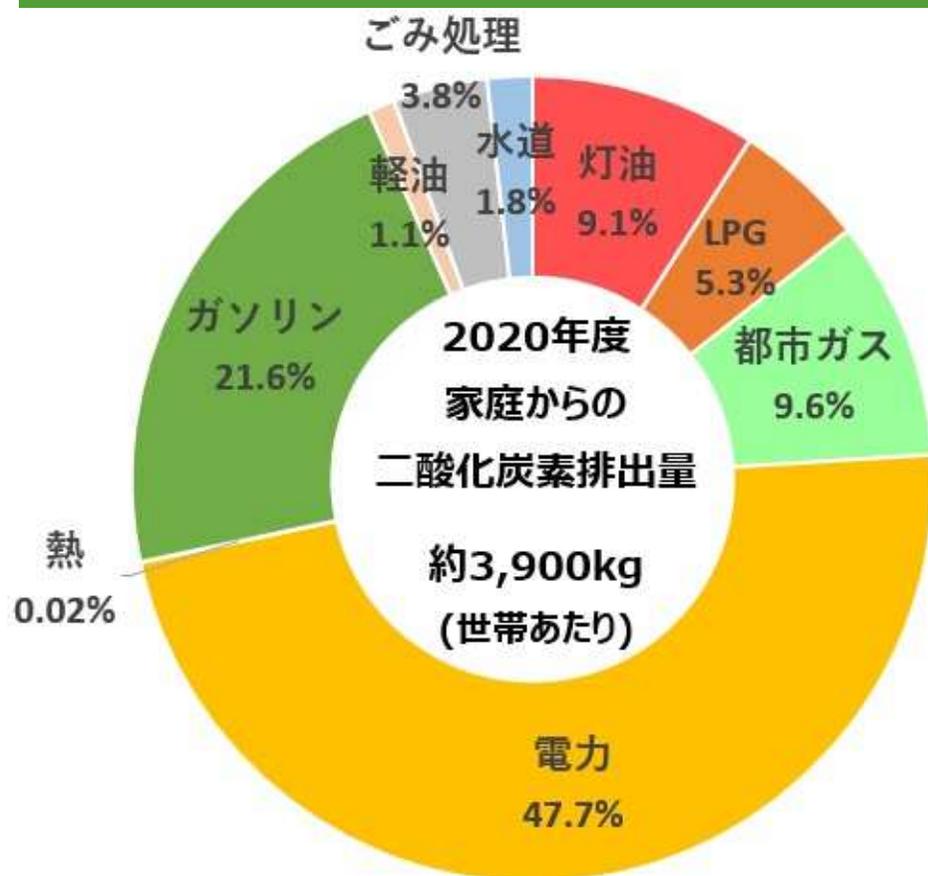


(参考) 家庭での二酸化炭素排出もとの把握



出典: 温室効果ガスインベントリオフィス

(参考) 我慢しないで家庭でできる脱炭素化の取組例



■ できることから徐々に脱炭素型ライフスタイルへ

- ① CO2フリー電力への切替 ▲47.7%
- ② 機器が壊れたら電化する ▲24.0%
 - ・ストーブ ⇒ エアコン
 - ・ガス給湯器 ⇒ エコキュート
 - ・ガスコンロ ⇒ IHヒーター or 電気コンロ
- ③ 自動車の買い替え時に3割燃費の良い車にする ▲6.8%



さらに、2050年までに
車を電気自動車にする

ここまでで **▲78.5%**

▲15.9%

ここまでで **▲94.4%**

残りは5.6% (ごみ+水道)
キエーロや雨水利用でさらに削減、
もしくは植林などで

▲100% = 実質ゼロ達成!!

杉1本で14kg吸収
16本で5.6%分
年1本植林でOK

目指すべき将来像を実現するための施策（P51～70）

（第2次島田市環境基本計画後期基本計画との相違点）

- 施策体系の再編
- 取組の大枠ごとに1つの指標設定に変更
- 各課の個別の取組をまとめて表記

計画の推進（P 7 1～7 2）

- **取組状況は毎年環境報告書にまとめて公表（継続）**
環境審議会（報告書について意見を聴く）
環境管理委員会・幹事会（庁内横断的な推進組織）
- **（仮称）ゼロカーボンシティ協議会の設立（新規）**
協議会の構成を含め内容は検討中
例）産学官連携により事業を促進
例）すべての市民の脱炭素へ向けた機運の高揚、取組の推進など